

1)「どっちが多い?」と問う。多い少ないが大い小さいか
ら未分化(言語化できない)な場合は、「多い・少ない」
の対の言葉を教える。
2) 手振り等で、多い・少ないから量感を感じさせるように
するとよい。

必ず片方だけを見せさせる。

- a) 比較による多少の判断と、量的なイメージへの還元。
- b) 大小から多少の概念の分化。
- c) 多い・少ないの対感なきし概念。
- d) 「多い・少ない」や「右・左」など対の語が混乱する場合は、評

Date /

Note

評



どっちが おおい?
(どっちが すくない?)

